

H28年度 学校関係者評価委員会 評価結果

自己点検評価項目		<評価基準> 3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない ----- 平均値	評価(意見)	評価結果とその背景	今後の取組
I. 教育目的・目標 教育理念					
教育理念・目的・目標の設定と達成	・教育上の特徴を示しているか。	3.0	・各項目明確に表されている。 ・概念図として明示されており、学生への周知はできている。 ・教育理念などは掲示され、入学時に説明を受けているが、3年間学習していく中で意識させ続けることは難しいと思われる。 ・教育理念については、概念図があり理解がしやすい。日常的には、なかなか意識しないと思うので、学園祭とか、創立記念日などにちよっと意識をするようなことがあるとよいのではないかと思います。	「教育理念・目的・目標の周知」に関する項目以外は、良い評価を受けた。昨年度の教育課程編成委員会で教育理念についての概念図を作成した。教育理念を学生や関係する人それぞれがより理解できるよう、形や色彩を工夫し説明している。その概念図が理解し易くよいとの評価であった。 「教育理念・目的・目標の周知」について工夫が必要ではないかと意見があった。	教育理念・目的・目標の周知が課題である。入学時オリエンテーションでまず説明しているが、3年間の学習のなかで意識定着を図ることは難しい。3年間継続して周知させる方法を検討する。
	・学生が卒業時点でどのような資質を有すべきかを明示しているか。	3.0			
	・教育理念・目的・目標の周知が図られているか。	2.8			
	・学生の学修指針に活かされているか。	3.0			
	・教師の教育活動指針に活かされているか。	3.0			
II. 学生の受け入れ					
学生募集の広報活動	・入学希望者開拓の広報活動等が適切かつ効果的に行われているか。	3.0	・高校訪問についても地域拡大が図られている。しかし、最近の若者の地元志向傾向、県内の看護師養成機関の増加、定員増など、学院としては厳しい状況であると推察できる。しかし、国家試験高合格率、卒業生の活躍などは学院の強みである。 ・最近では県東部まで学校訪問されている。 ・各方面に幅を広げ学校訪問を行うなど積極的な獲得活動が行われている。 ・マスコットキャラクターの採用や、学院祭、オープンキャンパスなど地域の方に親しみやすい雰囲気作りができている。 ・高校の訪問数も増やされ、高等看護学院の理解につながっていると思う。直接会って話をするのは、すぐに結果につながらなくても、理解等効果はあると感じる。島根県は広く時間的にも大変だと思うが、大事な取組であると感じる。 ・オープンキャンパスでの内容等工夫がみられるし、キャラクターのあゆみも学院がイメージしやすく親しみが持てる。 ・大学志向が高まる中で、専門学校としては、入学辞退など厳しいところはあると思うが、専門学校の特徴や小さい頃から石見高看を身近に感じるような取組や、国家試験100%合格、石見高看の卒業生の活躍ぶりなどもっと良いところをPRするとよいのではないかと。石見の看護師確保ということからも期待をしている。	大学志向や島根県の看護師等学校養成所の相次ぐ開学、それに加えた定員増など、島根県の看護師養成機関の現状や現代の若者の志向を鑑み、当学院の入学希望者開拓の取組について肯定的な評価を受けた。また、石見地域の看護師確保の観点からも、その養成に一翼を担う養成機関として期待されている。 高校訪問の範囲を益田圏域だけでなく、在学する学生の出身校を中心として、島根県全域に拡大したことは、高校の教員に当学院を知ってもらい、当学院に対する関心や理解が深まる積極的な取組として評価を受けた。 また、当学院の魅力を発信するツールとしてのマスコットキャラクター「あゆみん」の採用や、実際に入学希望者の対象となる高校生が足を運ぶ場としてのオープンキャンパス、学院祭についても、その内容等の工夫に親しみやすい雰囲気作りができていると評価を受けた。 専門学校としての石見高看の特徴や強み(国家試験の高合格率、卒業生の活躍など)をさらに打ち出していくことや広報活動の対象を現在取り組んでいる3学年の出前授業などのように、児童に拡大していくことが、今後の入学希望者の開拓につながるという意見があった。	現行の学院の中長期計画並びに第2次中长期計画に向けての推進課題4「島根県立石見高等看護学院の管理運営」の2)入学定員の確保の中の①看護師国家試験高合格率の維持、②広報活動の展開、③学生募集活動の促進、④更なる魅力アップの検討と推進課題4の6)の地域への貢献①卒業生の県内就業率の向上、②地域貢献策の検討にあげている内容と併せ、助言を加味しながら引き続き取り組んでいく。 入学試験の日程については、一般入学試験が検討課題ともなっているため、質の確保と共に入試委員会で検討する。
入学者選抜の方針・方法	・選抜の方針・方法は教育理念・目的・目標にてらして妥当であるか。	2.8	・選抜の方針や方法は妥当なところである。定員確保を目指すには、近隣の看護学校も増え、さらに辞退者の予想が困難になって来ており、大変苦慮するところと察する。 ・看護職も適性が大事であると思うが、入試時に見分け、判断することは難しい。入学後、育成することも期待して、定員に近い人数になると良い。 ・入学辞退者が多くなると、定員確保が困難となるため、入試日時などの検討も必要となる。 ・入試委員会等を設けられ、より高い公平性の確保に努力されている。	入学者選抜の方針・方法については、入試委員会を設けその規定に基づき選抜し、公平性を担保しているという評価を受けた。 大学志向による一般入学試験の辞退と入学試験による看護職としての適性の判断の難しさについては、一定の理解を得た。しかし、引き続き入学者の質の確保とともにその育成への努力と定員充足に向けた入試日時などの検討が必要ではないかという意見があった。	
	・選抜の公平性が図られているか。	2.8			
III. 学生生活の支援					
学修継続への支援	・奨学金等の経済的支援について周知し、活かされているか。	3.0	・経済的に困窮している学生、保護者が増加傾向にある事を把握し、それに対する情報提供を適切に行い支援を行っており、その実績は多い。 ・制度の周知等情報提供は大事であると思う。H28年度に入学者に初めて説明をされたとのことであるが、今後も学生・保護者に継続して実施されるとよいと思う。 ・3年間を無事に終了することは、とても大変なことだと思う。学生を育て、導いていける先生方には頭が下がる思いである。	社会情勢の変化における学生たちの状況に合わせ、支援内容を評価修正できている、全体的に学生生活の支援はされているという評価である。 学修継続のために必要な情報の提供や健康相談体制が確立され、その活用がされていることに対し高い評価が得られた。	進路選択やメンタル面への支援について、当学院ではチューター制度を設けており、学生生活への支援を図っている。今後もその制度を効果的に活用していくことが重要であり、やり方等について検討していく。 カウンセラーの活用について、有効性が高いことから引き続き実施していく。
	・カウンセラーの配置等健康相談について周知し、活かされているか。	3.0			

社会的活動への支援		・社会活動等に学生が積極的に参加できるように周知し支援しているか。	3.0	・市内の様々なイベントに積極的に参加されている。特に防災訓練などにも多く参加されており、今後の地域災害支援活動等においても学びが多いと思う。 ・適切な情報提供や指導がなされている。特に病院施設との交流会や行政との連携等様々な工夫がある。	<p>将来は医療従事者となるので、病院関係者や実習病院・行政との意見交換も進路情報を得る機会として重要と捉えられている。</p> <p>県内の看護師との交流会が県主催で年1回行われており、学生の進路選択において有意義である。この交流会以外にも、学生が現場の方と交流し、意見交換ができるような場の提供を含め、より効果的な支援が行えるよう検討していく。</p>
卒業後の進路選択への支援		・進路情報について周知し、適切な指導が行われているか。	3.0	<p>・地域でも、医学生・看護学生さんと守る会・病院関係者・行政などと意見交換会など行っている。</p> <p>・現場の方々との交流や住民との触れ合いなど自分が働くことのイメージができた。地域を知ることが大事なことだと思う。実習病院との意見交換会も大事だと思われる。</p> <p>・病院や大学等のタイムリーな情報をキャッチして指導されている。</p>	
IV. 教育課程					
教育課程の編成		・教育目的・目標や社会のニーズ、学問的動向に沿った編成をしているか。	3.0	<p>・卒業まで気配りされ対応されている。</p> <p>・対応されていると思う。</p>	<p>学問的動向に沿った編成をし、効果的な学習が得られるよう努力していること、また自己点検・自己評価をし改善しているという評価を得られた。</p> <p>今後、カリキュラムの改正が近いと言われていることから、カリキュラム改正に向けて情報収集し、より良い教育課程の編成を検討する。</p>
教育課程の見直し		・定期的に評価し、改善しているか。	3.0	<p>・カリキュラムに沿って効果的な学習が得られるよう努力されている。また、自己点検・自己評価体制も実施要綱に従ってしっかり行われている。様々な視点からアンケートを中心に評価され詳細に分析されそこから課題を見出し改善に向け検討もされており、PDCAがしっかり廻っている。</p> <p>・評価に基づき、改善も図られている。</p>	
V. 教育活動・教育指導					
学 科	学習支援(ガイダンス)	・学生が学修しやすいような内容・方法で、ガイダンスを行っているか。	3.0	<p>・土曜日の午後の図書室などの使用を可能にしたのは、良い試みである。</p> <p>・土曜日の施設開放は利用率も高く、有効的であった。</p>	<p>『学科について』 学科についてはほとんどの項目で「あてはまる」の評価を受けた。これらについては、協同学習など教員による新たな教育方法導入の取組や、教育について常に評価し課題を明確にしながら改善しようとしている姿勢を肯定的に評価する意見があった。 ただし「教員が授業準備の時間をとれる体制を整えているか」という項目のみ評価平均点は2.4点と他項目よりも低い評価とした委員が多かった。この点については、人員の充足により教員の時間的余裕を確保することが必要であるとの意見があった。 また、授業評価については「あてはまる」の評価を受けたが、引き続いての努力も必要だとされた。</p> <p>『実習について』 実習については7項目中の4項目が「あてはまる」と評価された。評価に「ややあてはまる」がついているものは以下の3項目である。 「教員の専門性が発揮できるように担当場所、時間を配分しているか」(2.6) これについては専門分野の病棟のみを担当することのできない専門学校での教育の現状を鑑み、教員同士ならびに実習指導者との連携体制の整備が必要とされた。 「教員が実習指導準備の時間が取れる体制を整えているか」(2.8) 『学科について』の項でも、教員の時間的余裕についての意見があったが、ここでも「実習準備にかかる時間の確保が充分であるか。限りはないが一定程度の時間は必要」とのコメントがあり、前項に通ずる意見が重ねてあった。 「教員は実習評価を行い、指導方法を改善しているか」(2.8) これについては、看護師の資質や感性について</p>
	授業の計画的遂行・調整	・学生が学修しやすいように授業の進捗を計画調整しているか。	3.0	<p>・自己点検・自己評価の評価点は若干低いが、それは先生方の真摯な取り組みの表れだと解釈できる。</p>	
	シラバスの作成状況	・学習への動機づけになるようなシラバスを作成しているか。	3.0	<p>・シラバスについては学生からの評価で概ね良いという評価となっている。</p>	
	授業科目の担当・時間数	・教員の専門性が発揮出来るように担当科目と時間数を配分しているか。	3.0	<p>・人員が充足されて、時間的余裕ができると準備の時間も取れて研修等の機会も増える。</p> <p>・協同学習を取り入れながら、また学生個々が主体的に学習出来る環境、状況を組み立て、実施されていることが伝わった。また、効果についても評価しながら改善を図られていることがわかった。</p>	
	教育・学習指導方法の工夫	・教員が授業準備の時間をとれる体制を整えているか。	2.4	<p>・得られた課題から検討を行い、改善に向け努力をされている。昨今の状況や知見から情報を常に得、研究をし様々な学習方法を取り入れたり試行錯誤され、努力されている様子が見て取れる。</p>	
		・教員が自己研鑽し、指導方法を工夫できる体制を整えているか。	3.0	<p>・学習評価も都度得ており、それに対する改善も行っていると思われるが、より動機づけや実践に繋がる授業計画となるよう引き続き努力されたい。</p>	
授業評価	・教員は授業評価を行い、指導方法を改善しているか。	3.0	<p>・先生方は各委員や研究など各方面で自己研鑽を積んでおられ、それを学生に還元されている。</p> <p>・学生の評価・教員自身の評価により、学科・演習・実習の内容にいかされている。そのため、学生の評価も高くなっているのではないだろうか。</p> <p>・評価を多角的に行うことは、大変なことではあるが、それによって改善点が明らかになり、改善につながっている。</p>		
実 習	学習支援(オリエンテーション)	・学生が実習しやすいような内容・方法でオリエンテーションを行っているか。	3.0	<p>・評価を多角的に行うことは、大変なことではあるが、それによって改善点が明らかになり、改善につながっている。</p>	
	臨地実習の計画的遂行・調整	・学生が実習しやすいように実習を計画・調整しているか。	3.0	<p>・実習の間でも班の再編成を行うなど実習が円滑に行われるような配慮がある。</p> <p>・実習準備にかかる時間の確保が充分であるか。限りはないが一定程度の時間は必要。</p>	
	実習指導要項の作成	・実習への動機づけになるような指導要項を作成しているか。	3.0		
	臨地実習の担当・時間数	・教員の専門性が発揮出来るように担当場所、時間数を配分しているか。	2.6	<p>・実習については、いつも担当教員が同じ実習場にいけないとは限らないので、教員同士あるいは実習指導者とすぐ連携できる体制を作っておく。</p>	
	実習指導方法の工夫	・教員が実習指導準備の時間が取れる体制を整えているか。	2.8		

	実習評価	・教員が自己研鑽し、指導方法を工夫できる体制を整えているか。	3.0	<p>・実習評価については、学生へアンケートを実施して、それを活用し改善に繋げている。</p> <p>・進級時、看護職としての資質や感性がどうかなども検討する機会があると、看護師になってから仕事を辞めるということが少なくなるのではないかと。</p> <p>・細かい面は不明であるが、良い形で取り組まれているのではないかと思う。</p>	<p>の検討を行い、看護師になってからの離職という事態を避けるという意見があった。</p> <p>『特別活動』『成績評価』『単位認定』は、いずれも「あてはまる」と評価されていた。</p>
特別活動	学校行事	・学生や教員が参加しやすい日程、時期を計画し指導しているか。	3.0		
	自治会活動、H・R活動	・学生や教員が参加しやすい日程を計画し指導しているか。	3.0		
成績評価	成績評価の方針と基準	・学生に成績評価の方針と基準を公表し、周知しているか。	3.0		
単位認定	単位認定の方針と基準	・学生に単位認定の方針と基準を公表し、周知しているか。	3.0		
VI. 学校環境					
施設設備	校舎の設備と管理	・定期的に点検し、適正な整備を行っているか。	3.0	<p>・シミュレーション室が開放されているため、活用が進むようにしていく。</p> <p>・外壁工事の騒音についてはやむを得ないことである。</p> <p>・移転開学から16年が経過し、所々劣化が目立つようになって来ているが、必要に応じ改修工事が順次行われ、学習環境が損なわれない様整備が行われている。</p> <p>・寮の完備においても同年数が経過する中トラブルも発生しているようであるが、その都度適切に対応できている。今後も学生の休息の場である大事な空間である旨配慮されたい。</p> <p>・適正な整備が行われている。学院へ訪問した際、校内・庭が整理整頓されており、気持ちが良い。</p>	<p>校舎、寮ともに必要に応じて改修・修繕がされ、また、シミュレーション室が整備されるなど学習環境は整えられているという評価が得られた。</p> <p>実習施設の移転や法令等による備品の入れ替えがあったが、実習に支障がないように整備できているという意見があった。</p> <p>しかし、評定平均は3.0であるが実習施設の清掃に関して指導が必要という意見があった。</p>
	学生寮の設備と管理	・定期的に点検し、適正な整備を行っているか。	3.0		
	美化対策	・校舎及び庭等の美化対策に努めているか。	3.0		
実習施設	実習用品の整備	・実習用品を定期的に点検し、適正な整備を行っているか。	3.0		
	学生控室等の整備	・備品等を定期的に点検し、適正な整備を行なっているか。	3.0		
VII. 組織・管理・運営					
組織体制の整備		・組織体制と意思決定システムを明確に規定しているか。	3.0	<p>・管理運営等適切になされている。</p> <p>・明確である。</p> <p>・近辺に於いて人材資源がどこにおいても不足している中、苦慮しながらも何とか確保されている様子。平成28年度にはさらに充実する見込みとなり良い方向である。また、教員育成にあっても順次進んでいる。</p> <p>・教員の欠員により、教員の負担感が増し、学生指導の不十分さにもつながると思われる。平成28年度は、人員確保されたとのことであるが、今後も人員確保については継続して取り組んでほしい。</p>	<p>組織体制は明確であり、管理運営等は適切になされており、教員の欠員が見られる「教員人事の適正配置」の項目以外の評定は3.0であった。</p> <p>教員の欠員はH28年度には解消するが、今後とも人材育成・確保に取り組むべきとの意見があった。</p> <p>予算要求については適切との評価であった。</p> <p>学生の安全対策については、講習会開催、学生保険の充実等がみられるが、ハラスメント等多様な危機への対策が必要との意見があった。</p> <p>地道な看護師国家試験対策については評価を受けた。</p> <p>県内就職率が高く県内看護師確保に寄与しているとの評価がある一方、県内での需給バランスから本人の希望どおりにならなかったり、県外就職希望者などが見られるとの意見があった。これらの事象への指導や対応についての検討が必要であるとの意見があった。</p>
教員人事の適正配置		・教職員の任用の考え方を明示しているか。	2.8		
職員の業務分掌		・職員の業務分掌を明示し、周知しているか。	3.0		
講師・実習指導者の確保		・講師・実習指導者の選定の考え方を明示しているか。	3.0		
予算・経理	予算要求	・要求項目を精査し、要求金額を明らかにするなど、合理的な予算要求に努めているか。	3.0		
		・法令・規則等を遵守し、適切な予算執行に努めているか。	3.0		
	庶務・経理	・迅速な事務処理に努めているか。	3.0		
事故の対策と安全管理		・事故の対策と安全管理の考え方を明示し、周知しているか。	3.0		
会議、委員会の運営		・会議・委員会の規定に基づき、運営しているか。	3.0		
学籍の管理		・学籍の管理の方法を規定し、適正に管理しているか。	3.0		
国家試験合格状況		・国家試験合格状況を分析し、整理しているか。	3.0		
<p>・警察の協力を得、各講習会が開催され知識や認識を高めていると思われるが、昨今の社会情勢からハラスメント対策や部外者進入対策、災害による危機管理等において、より学生の安全確保のため多角的視点からの対策が求められる。</p> <p>・高い合格率を得ている。試験対策の賜物ではないだろうか。</p> <p>・卒業生の県内就職については、目標を設定、達成に向けての取組は伝わる。しかし、学生の考えとしては県内では学べない「看護」を目指して、県外の医療機関を希望することもある。県立としての使命はあるが、これは今後も課題として続くと思われる。</p> <p>・東部(山間部は除く)に於いては看護師が充足傾向にあり、就職試験にも落ちる時代となると聞くが、傾向に応じた対策が必要となってくる。</p> <p>・本人の希望通りの進路(就職先)にならないケースもでてきている。そのようなときの指導や対応について検討が必要である。</p>					
<p>各項目とも概ね評価されており、現状の取組を検証し評価意見等を参考に必要に応じて修正しながら継続していく。</p> <p>教員の育成・確保については益田市医師会等と連携しながら取組について検討する。</p> <p>予算については厳しい県財政状況であるが、新たな需要や施設の経年変化・劣化等に対応した予算要求を行うよう検討する。</p> <p>学生の安全確保等の危機管理対策については、出来るものからマニュアルの整備を行うよう検討する。</p> <p>国試対策については、学習習慣を身に付けさせることを念頭に置き、1年次からの模擬試験実施等の各種取組を行う。</p> <p>高い県内就職率の保持に努め、希望する病院に合格するために基礎学力の向上を図り、質の高い人材を育成する取組を検討する。</p>					

卒業生の進路	・卒業生の進路状況を分析し、整理しているか。	3.0	・県内就職は86%で、県内の看護師確保に寄与していると感じる。就職試験に落ちる学生が出てきたということで、学力はもちろん、モチベーションや人間性を高めるような部分での対応も必要だと感じた。		
VIII. 研修・研究					
教職員の研修等活動	・教職員の資質向上のための研修等への積極的参加について支援しているか。	3.0	・研修への参加も多く、また研修での学びを学会発表に繋げておられることは評価できる。 ・自己研鑽を惜しまず必要とされる研修会に積極的かつ計画的に参加されている。 ・各種研修会に参加されている。 ・医師会病院に研修センターもでき、機材等も整備されているので、それを活用した研修会開催などはいかがであらうか？	平均評定は3.0であり、教員それぞれが積極的・計画的に研修会に参加し自己研鑽できていること、研究した結果を学会に発表をしていることについて評価が得られている。 研修会の開催については、医師会病院の研修センターを活用して実施すると良いのではないかという意見があった。	今後も積極的に研修会・学会に参加するなどし、自己研鑽に励み教育力の質の向上を目指す。 学院開催の研修会については、周囲の施設との関係性を深めることもねらいとしてその施設の設備を活用していくことを検討する。
IX. 社会との連携					
地域社会との連携と交流	・地域住民や施設との連携や交流について積極的に支援しているか。	2.8	・社会福祉法人や消防などの行政関係等あらゆる方面のイベントに参加し、地域社会に参加しており、社会貢献にも繋がっている。 ・地域への出前講座、ボランティア活動、地域行事への参加、市との協働事業等積極的に活動されており、地域への貢献も感じる。地域に出かけるとき「あゆみん」のポロシャツ等を着るとより高看生がアピールできるのではないかと思う。 ・体育館や講義棟などの地域への貸し出しを行っていることは、はじめて知った。	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献の他に地域の求めに応じた学生のボランティア活動について評価を得た。また、そのような地域貢献活動の機会に、マスコットキャラクターを活用して、学院のPR活動を展開していくことの助言を得た。	現行の学院の中長期計画並びに第2次中長期計画に向けての推進課題4「島根県立石見高等看護学院の管理運営」の6)②地域貢献策の検討と併せ、助言を加味しながら引き続き取り組んでいく。
実習施設との連携と交流	・積極的に実習施設との連携や交流を行っているか。	2.8	・実習先とは各種会議や実習先主催のイベントにも参加し交流を深めている。  学院マスコットキャラクター「あゆみん」	実習施設との連携・交流については、合同会議、イベント等への参加を通じた取組が評価された。	実習施設との連携・交流についても引き続き取り組んでいく。
X. 学校評価					
自己点検・自己評価体制	・自己点検・自己評価体制について規定しているか。	3.0	・教員ラダーは必要であり、進めていることは良い。 ・保護者アンケートは回答しにくいような項目もあるので、内容の検討が必要ではないかと思う。「よくわからない」という項目も必要ではないかと思う。 ・自己評価はもちろん各方面に向けアンケートを行い客観的な意見を吸い上げている。また、関係者による評価委員会を持ちより生の声で伝え、聞くという事でよりリアルな評価に繋がっていると感じる。学内の見学などがあればより解りやすい。 ・実施要綱に基づき評価されている。学生・保護者の評価も踏まえ、改善についても検討がなされている。まとめの時間もかなりかかっていると思うので、この評価がぜひ次につながるよう期待をしている。	当学院の自己点検・自己評価の取り組みについて、自己評価に終わらず、他者評価を得て、自己評価の透明性を高め、改善に向け取り組んでいることに高い評価を得た。また他者評価のアンケート内容についても貴重な意見を得た。	自己点検・自己評価、学校関係者評価に引き続き取り組んでいく。自己点検・自己評価の結果及び学校関係者評価委員の意見を反映し、特色ある学院づくりに繋げ、充実した学校運営を行っていく。
	・自己点検・自己評価し改善しているか。	3.0		今年度初めて学校関係者評価委員会を開催した。実施内容について高い評価を受けるとともに、あらたな示唆を得た。	